

平成 26 年度越境大気汚染・酸性雨対策検討会において
指摘された課題とその対応について

平成 27 年 3 月 18 日に開催された平成 26 年度環境省越境大気汚染・酸性雨対策検討会
会で指摘された課題とその対応案は以下のとおり。

	指摘された課題	発言者	対応
1	平成 25 年度の隠岐局の乾性沈着量が大きいのは、その原因が、濃度要因か、気象の影響による沈着速度の要因か、要因を切り分けることはできないか。	秋元座長、大原委員、松田委員	平成 20～25 年の隠岐局における SO ₂ 、粒子状 SO ₄ ²⁻ 濃度の経月変化からは特異的に硫黄化合物濃度が上昇している年は見られなかった。平成 24～26 年における森林表面の SO ₂ 乾性沈着速度の年平均値は、3.6、3.9、3.9 cm/s、草地表面の SO ₂ 乾性沈着速度の年平均値は、1.6、1.8、1.7 cm/s であり、乾性沈着速度の増加が沈着量に影響していると思われる。詳細については資料 4 - 1 p.28 に示す。
2	構原局における乾性沈着量の過去 5 年平均値はあまりにも大きく、噴火時は特異的な高濃度が観測されたはずである。算出に問題ないか確認願いたい。	村野委員	調査により平成 23 年のガス状物質の乾性沈着速度計算に誤りが見つかったため、修正を行った。修正後の平成 21～25 年平均値を資料 4 - 1 p.31 図 22、23 に、過去 7 年間の SO ₂ 濃度の経月変化を資料 4 - 1 p.32 図 24 に示す。 平成 24 年 1 月以降に火山の影響を受けていると思われる SO ₂ 濃度の上昇が見られたが、硫黄化合物の沈着量増加に寄与しているとは言い難い結果であった。
3	伊自良湖局における測定について、大気濃度測定に関する地点の代表性が問題になっており、過去 2	秋元座長	検討結果を資料 2 - 2 に示す。

	年の検討会でも移設の必要性や周辺測定局の状況について検討されたものの、結論に至っていない。		
4	平成 25 年度 8 月に竜飛岬局、東京局、佐渡関岬局といった地点で粒子状物質の高濃度が観測されているが、広域的な汚染も疑われるため確認していただきたい。	永島委員	後方流跡線の分布を調べたところ、該当期間では国内由来が支配的であり、広域越境汚染との関連性は見られなかった。
5	例年に比べ平成 25 年度夏季のオゾン濃度が篋岳局、大分久住局で低くなっているが原因は何か。	金谷委員	平成 25 年度は特異的に夏季に低い傾向が見られたが、平成 26 年度はこの傾向が見られなかった。測定異常は見られず原因は特定できないが、今後の傾向を注視する必要がある。詳細については資料 4 - 1 p.27 図 18、19 に示す。
6	0-10 及び 10-20cm の深さで土壌採取を行っているが、過去 10 年分の結果も出たことから、採取深さによる値への影響について検討してもらいたい。	伊豆田委員	生態 WG において、採取深さによる一般的な傾向や影響の違いについても解析を進める。
7	大気 WG で出されたモニタリングデータに関する意見を反映させて検討会に臨んでももらいたい。	松田委員	各 WG 会合の議事概要の内容を十分精査してから、検討会会合の準備を行う。
8	国内においては越境大気汚染を重視してきたためアーバンサイトが少ない。近年はアーバンにおける PM _{2.5} 濃度に関心が高く、EANET のアーバンサイトである東京局のモニタリング項目の拡充は必須である。検討会でも 2 年前から要求してきた点であるため結論を出してもらいたい。	秋元座長	検討結果を資料 2 - 2 に示す。
9	長期モニタリング計画改定に伴う実施体制変更により、分科会がな	秋元座長	両ワーキンググループにおいて検討を行った。検討結果を資料 2 - 2 に示

<p>くなりワーキンググループが占める割合が大きくなっている。サイトの適正配置といった点もワーキンググループで検討し、検討会上げる必要がある。東京局のモニタリング項目拡充、伊自良湖局の配置検討もワーキンググループでの検討に加えてもらいたい。</p> <p>個別のワーキンググループでは検討しづらい部分もあるため、測定局の適正配置のために、大気系と生態系の合同タスクフォースを設置してはどうか。</p>		<p>す。</p>
--	--	-----------